平成　21　年度

# 1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 0471500306 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人　寿清会 | | |
| 事業所名 | グループホーム　笹森の屋　　ユニット名　笹の屋 | | |
| 所在地 | 宮城県大崎市古川清滝字笹森118番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成　21　年　10　月　22　日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://yell.hello-net.info/kouhyou/ |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡４－２－８　テルウェル仙台ビル2階 |
| 訪問調査日 | 平成　21　年　11　月　17　日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

〇出来る事への配慮、選択・決定の自由　〇本人の意欲向上、やりがいを感じる支援を行なっている。　〇グループホームの特性をいかし、普段の生活の中で生活リハビリを通じて自身回復の取り組みを行なっている。　〇社会生活の継続に向けて外出、買い物、ドライブ等の支援に取り組んでいる。〇積極的な地域行事への参加、ボランティアの受け入れ及び協力を行なっている。　〇環境を生かし四季の移り変わりが肌で感じられる。　〇年間行事への家族参加の協力が多い。　〇職員のチームケアへの取り組みに力を入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

築館インターから南下して約15分、緑豊かな自然に恵まれた「笹森の里」がある。デイサービスセンター、ケアハウスと共にグループホーム「笹森の屋」がある。「ゆっくり、一緒に、楽しく」を基に四季を感じて頂きながら安心、快適、少しでも自立生活が出来る様支援することを21年度の取組みとしている。入居者の一番の楽しみは食事で「給食委員会」で検討し、献立から調理まで委託業者（朝,昼,晩の副食）と相談し「美味しく、食べ易く、栄養のバランスよい」食事を提供している。尚、月1～2回の行事食は入居者と職員で献立、調理（台所にIH設置）、準備、後始末迄行なっている。食事前に嚥下体操をし職員も同じ物を食しサポートしている。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに〇印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | 〇 | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>（参考項目：18,38） | 〇 | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>（参考項目：38） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>（参考項目：36,37） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>（参考項目：49） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>（参考項目：30,31） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>（参考項目：28） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに〇印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>（参考項目：9,10,19） | 〇 | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>（参考項目：2,20） | 〇 | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>（参考項目：4） | 〇 | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>（参考項目：11,12） | 〇 | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 〇 | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |

## 2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホーム　笹森の屋　)「ユニット名　笹の屋

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念を基にグループホームでの理念を作成全員が常に共有できる所に配置している。 | ホームの理念は、法人の理念を基に皆の話し合いで創られた。「ゆっくり、一緒に、楽しく」職員は理念を行動規範として、日常のケアの実践に活かしている。尚、地域密着型事業所の位置付けについても話し合って頂きたい。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事、学校行事等に参加している。ボランティアを含め常に交流の窓口は空けている。町内会にも加入している。 | 地元との連携を大切にし、地域の行事、運動会や夏祭り等にも、入居者と職員が一緒に参加したり、小学校の学芸会に招待されて交流をしたり、ホームのクリスマス会等には、地域の子供達も参加し楽しく過ごしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域と入居者との交流の場を地域行事・施設行事等を通じて理解・支援を頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事業計画、ユニット目標、サービス内容等取り組みを報告の上、意見要望を施設全体、ユニット内で話し合いを行いケアプラン等に取り入れ改善に取り組んでいる。 | 運営推進会議は、ホームと地域を結ぶ重要な掛け橋である。会議ではの日常の生活の様子や行事等を説明し、メンバーの理解と協力を得られるよう話し合いをしているが、活発な双方向性の会議と迄は至っていない。 | 利用者や知見を有する人も委員にお願いし、地域との連携強化に対しての知恵や工夫等、活発な会議にして頂きたい。会議は県の指導で年6回開催してほしい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 情報の交換、報告、連絡、相談を行ない協力体制に取り組んでいる。 | 市の担当者との連携はよく、今回の外部評価にも同行して調査の内容を熱心に見守ってくれた。省令改正や加算手当て、介護職員の処遇改善交付金等、助言や指導もなされており、日常的にも情報交換がされている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的には身体拘束を行なわないケアを実施している。必要性がある場合は家族と相談にて検討している。 | 日中玄関に鍵を掛けていない。補助的なチャイムは来客用である。徘徊気味の人には、職員は見守り声掛け等で対応している。職員は身体拘束は高齢者虐待であることを理解し、基本的には自由な生活を目指している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 管理者、計画作成者にて防止に向けて職員に徹底指導を行なっている。又、職員を外部研修に参加させている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 施設全体研修、介護支援専門員を中心に個々にあわせて支援体制を行なっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、解約時に家族との面談を実施し充分な話し合いを行い、契約書・重要事項説明書を用い説明をしている。改定の際は説明のうえ同意書を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者の日々の中でのコミュニケーションでの意見・要望。家族連絡、面会時、運営推進会議など家族等より意見を頂いてユニット内　グループホーム全体としての意見として反映している。また、御意見箱を設けている。 | 相談苦情は、サービスの向上に貴重な情報源である事を職員は理解している。意見箱を設けたり家族の来訪時には職員から声をかけ話し易い雰囲気を作り、ホームのイベントに家族が参加した時は懇談会を持っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々、職員とのコミュニケーションを図り意見、提案等聞き出し施設長、事務長、管理者、計画作成者にて話し合い反映に努めている。 | 施設長、事務長、管理者、職員は理念を共有し、チームケアを進める為、日常的に情報交換をしており、意思の疎通を良くしている。上司は、職員の夜勤の精神的負担の大変さを理解しており、夜勤者の手厚い配置を検討している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 一方的な指示ではなく、法人及び事業所内での指示命令の統一をし、業務のストレスを感じさせない取り組みをしている。職場環境面では食事・睡眠時の別室など課題はあるが、随時検討し、次年度は努力したい。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 3年前に給与規程を抜本的に見直しをかけ、資格手当の新設や給与体系も職種別に改善しているため、資格取得に対するモチベーションがあがり受講意欲も向上している。また育成計画については年度研修計画を策定し、各職員の能力等に応じて社内外の研修に計画的に受講させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者交流については役職者等の視察見学程度であり、実質的にケアの向上には結びついていない。実際は内部における自己実現のための研修が主であるため、煩雑なGH単位での交流は難しいのが現実である。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回の相談及び入居前・後等必要に応じ直接面談を行い、本人の様子、状況等を聴け少しでも安心感を持って頂ける支援を行なっている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回の相談及び入居前・後等必要に応じ直接面談を行い、本人の様子、家族の状況等を聴け少しでも安心感を持って頂ける支援を行なっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 来館、電話等にて相談等にあった際は、状況を確認後、等施設の他にも、他のサービスや、申請等情報の提供や、確認等行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 年長者として常に尊敬できる気持ちを持ち、入居者に教わりながら、一緒に生活、支援を行なっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族等へ状況や様子等報告を行いながら、家族の思いや、希望、要望等を随時聞き入れ、本人、家族の双方にとってよいケアを行える様努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 可能な限り、入居後も、ご家族、知人等に面会や外出の協力をお願いしている。また、電話等で連絡が取れるようにしている。 | 入居者の心の支えである家族、親戚、友人との関係を大切にし、また、ホームに入居してからの新しい関係つくりにも気を配り、安心して生活できる場である事が実感できる様支援している。外出等も馴染みの店に通っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 趣味や性格、嗜好等配慮し、活動内容によってグループ、場所の変更等行いながら、お互いを支えあえる支援を行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了時状況にもよりますが、退去後の様子の確認。相談等あれば随時アドバイス等を行なっている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 常に疑問等持ちながら、本人が困っている行動、発言等時都度ご家族等相談し、本人の以前の様子や出来事等お聴きし、少しでも本人の思いを組み入れより良いケアへ繋げている。 | 入居者と話し合ったり、家族からお話を聞いたり、入居者の思いや意向を把握している。「個別ケア」として一人ひとりの思いを大切にし、幼い時の思い出に一緒に浸ったり、回想法にもつながるような支援をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族、ご本人又は親族、友人、近隣の方から情報を頂きながら、これまでの暮らし等把握してる。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 見守り、観察、検温等常に職員が状態を把握し、又全職員が周知できる様、健康表及び連絡ノート等活用し状態把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメント、モニタリング等各職員、家族、本人等から意見を頂き、各担当分野での意見の交換を行い、本人にとって最善の計画書を作成するよう努力している。 | 介護計画は、関係者によるカンファレンスをし、利用者や家族の意向を尊重し個別具体的な目標（短期、長期）で家族の同意を得ている。計画がどう実施されているかモニタリングをして3ヶ月毎に計画を見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の介護記録、スタッフ間でのモニタリングシート、入居者様気付きシート等を利用し、情報の共有を行いより良いケアへ繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 法人内の他事業所スペース及び設備品等利用し、楽しみ、喜びに繋げられる支援をしている。（休み時）又特変時等法人内看護師に応援要請等も行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 小学校との交流、地域行事参加交流等積極的に参加すると共に、施設、ホームへも、お招きし共に楽しめる場を提供している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医院以外に、入居前から馴染みのかかりつけ医に通院されている方も数人おられる。受診の際は必ず、ホームでの様子や、症状等受診時に記録しバイタル表と合わせて受診の際家族にお渡しし、的確な情報を主治医へ報告している又、医師から受診表に直接所見や助言、指導を記入して頂き、情報が共有できるようにしている。 | かかりつけ医でも、家族が付き添って受診できる様「受診記録表」を作成している。ホームの生活や病状を記入し、受診した結果や所見等も記入して病歴の資料としている。尚、協力医による定期検診も行なわれている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医院の看護師（師長、主任）、同法人看護師と随時相談、報告を行い、急変時や体調不良時の対応等的確な対応等の助言を頂いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院後病院へ伺い、家族、医師、看護師、ソーシャルワーカーとの話し合いの場を都度設け、情報交換や今後の方向性等を明確にし、安心して治療及び退院等ができるように支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 安心して生活して頂ける様入居時だけでなく、日常的に健康管理や治療等についても都度話し合う機会を作っている。又重度化に伴ない退居がやもうえない場合でも、家族、医師、本院等と話し合い今後の対応、方向性を確定している。 | 重度や終末期になってもできるだけ本人の希望を尊重し、入居者が安心して生活ができる様、入居時説明して同意を得ているが同意書は作成していない。できる事、できない事を含めて十分説明し納得して頂いている。 | 看取りはホームだけでは解決しないが、信頼している入居者に対しできるだけ心地よい環境を維持できる様ケアの専門家としての関わってほしい。尚、看取りの方針を成文化し同意書による意思確認もして頂きたい。。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救命救急の受講の斡施及び内部研修での定期研修の実施（法人看護師による指導等） | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練実施をしている。又非難路及び防災マニュアルの整備を行い周知徹底している又、非常用食材は一括して本部にて保管している。又消防署と直結の非常用通報装置を整備している。 | 消防署立会いの訓練を含め年2回の災害訓練のうち1回は夜間想定の訓練である。夜勤時に災害があった時を考え、具体的に何が課題か皆で話し合って頂きたい。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 馴れ合いの接し方はせず、敬意をもって、馴染みの関係対応をしている。又羞恥心には充分に留意し、さり気ない声掛けをし他の人に分からない様配慮している。何を行なうにも必ず本人へ確認を行い了承を得てから行う様にしている。 | 入居者の呼び名は名前に「さん」をつけて呼んでいるが、馴れ合いは戒めている。粗相をした時は、他人に気付かれない様にそっと声をかけトイレや居室で対応している。言葉使いや職員の態度から人権を尊重している事がわかった。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 生活歴を把握、考慮し、様々な選択できる環境を整え、出来るだけ自分で決定出来やすい様に支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースを把握し、生活リズムを崩さず快適に過ごして頂ける様支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 家族と共に外出しお好みの洋服の購入及び美容院等に行ける様支援。又、訪問理容を実施しており、希望時はご利用して頂いている。又普段の衣類等もご自分で選んで着れる様支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の調理、献立作成等は委託業者にて提供しているが、最低月一回は給食委員会を行い、食事についての意見交換等行っている。配膳、下膳、後片付け等一緒に行っている。又月に1～2回程度行う行事食は希望メニューを決め、買い物から、調理まで、担当を決めて一緒に作り、同じテーブルにて職員も同じメニューを入居者と食べ、都度状況等観察、対応している。 | 給食委員会で献立や調理など委託業者（朝、昼、晩、の副食）と相談し、栄養のバランスについても法人と委託業者の栄養士で話しあっている。ご飯や汁物は入居者と職員が一緒に準備し、食事をした後は片付けもしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 本人の能力に合わせた食事提供（一口大、刻み、トロミ、粥）等の実施、食事時間も本人の状況によりずらしている。食事、水分量等は都度チェックし、次の食事へと反映している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎年の協力歯科医による歯科検診の実施及び受診治療の支援。個々の機能を活かした支援の実施。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 本人のパターンや能力を把握し都度声を掛けたり、失敗しない様一部支援等を行ないトイレで排泄できる様支援対応を行っている。 | 自立排泄は尊厳と生きる気力に関係する。排泄パターンやサインを見逃さず、できるだけ失敗しない様前誘導している。また、その人にあったパットやリハビリパンツも使用している。人によっては夜間のトイレ誘導をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 健康表、排泄表、本人の様子等確認又、食事、水分、運動量考慮し、便秘の改善に努めている。主治医からの助言も頂いている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 身体状態・精神状態に合わせて個人の希望に添えるように。また、個人の能力に応じた残存能力を活用した支援を行っている。 | 入居者の生活習慣や希望を聞き、毎日でも入浴できる様努力している。その人にあった湯温で気持ちよく入って頂いている。入浴は、癒しの効果もあり安眠にも繋がる。夜間入浴の希望があれば検討をして頂きたい。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 不快な音、光等はさけ、快適な温度、湿度等保ち、本人の休みたい時に休め、心地よく休める環境を整えている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬表を作成し、各職員が作用、副作用、用量等が分かる様対応している。又誤薬防止の為にも、服薬マニュアルも作成し支援を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者ごとの得意、不得意、嗜好等共有し、本人が気兼ねなく、やる気を持って行える様支援している個々役割りを持ち生活を行える支援を行なっている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩、買い物、外食、地域交流外出、観光等入居者の希望に添ってスケジュールをくみ実施している。又ご家族との外出も随時できる様配慮している。 | 外出は、サービスのバロメーターとも言われる。地域交流外出として地域のイベントに出掛けたり、観光として桜や紅葉など四季の変化に接し喜ばれている。今はインフルエンザで少し外出を控えている。ホーム専用の車がなく法人の車を時間調整して使用している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理が可能な方は、本人、家族と相談し、所持して頂き、買い物時自ら購入して頂いてる。管理が難しい方でも、買い物時はお金を渡し、レジにて自分で購入できる様サポートしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があればいつでも電話ができる様対応している。又、暑中見舞い、年賀状等家族、親戚、知人等に書き投函し、返事等がある際大変喜ばれている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 周囲には季節感が常に味わえる果物木等があり又、収穫も出来、味わう事ができる。食堂、廊下等にも季節感が味わえる装飾や一緒に作成した作品等も展示している。不快音、光、温度、湿度等には注意し、温度、湿度計にて都度確認し換気等実施。 | 廊下も広く居間兼食堂は明るく清潔である。温度や湿度の管理もよく、臭気のようなものは感じられなかった。居間には新聞や雑誌もありテレビの音量も適正であった。和室には昔風の茶箪笥もあり、季節の花が添えられて落ち着いた雰囲気があった。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 茶の間、小上がり等少人数又は独りで過ごせるスペースを確保している。又気兼ねなく過ごせる様にしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 仏壇、タンス、テレビ、テーブル、裁縫道具、掛軸等長年愛着のある物を持参して頂き、居心地の良い居室に努めている。又居室に展示ボードを提供し、写真などを貼っている。 | 入居者が居心地よく過ごせるよう、家族に使っている馴染みの物を持って来て頂くように話している。衣類、整理タンス、椅子、仏壇、テレビや裁縫箱も見られた。壁には家族の写真等も張られていた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 補助具の使用、設置や、明るさの調整等を行い、現能力を活かしつつ、出来る事は実施して頂いてる。 | | |

平成　21　年度

# 1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 0471500306 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人　寿清会 | | |
| 事業所名 | グループホーム　笹森の屋　　ユニット名　森の屋 | | |
| 所在地 | 宮城県大崎市古川清滝字笹森118番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成　21　年　10　月　22　日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://yell.hello-net.info/kouhyou/ |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡４－２－８　テルウェル仙台ビル2階 |
| 訪問調査日 | 平成　21　年　11　月　17　日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

〇出来る事への配慮、選択・決定の自由　〇本人の意欲向上、やりがいを感じる支援を行なっている。　〇グループホームの特性をいかし、普段の生活の中で生活リハビリを通じて自身回復の取り組みを行なっている。　〇社会生活の継続に向けて外出、買い物、ドライブ等の支援に取り組んでいる。〇積極的な地域行事への参加、ボランティアの受け入れ及び協力を行なっている。　〇環境を生かし四季の移り変わりが肌で感じられる。　〇年間行事への家族参加の協力が多い。　〇職員のチームケアへの取り組みに力を入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

築館インターから南下して約15分、緑豊かな自然に恵まれた「笹森の里」がある。デイサービスセンター、ケアハウスと共にグループホーム「笹森の屋」がある。「ゆっくり、一緒に、楽しく」を基に四季を感じて頂きながら安心、快適、少しでも自立生活が出来る様支援することを21年度の取組みとしている。入居者の一番の楽しみは食事で「給食委員会」で検討し、献立から調理まで委託業者（朝,昼,晩の副食）と相談し「美味しく、食べ易く、栄養のバランスよい」食事を提供している。尚、月1～2回の行事食は入居者と職員で献立、調理（台所にIH設置）、準備、後始末迄行なっている。食事前に嚥下体操をし職員も同じ物を食しサポートしている。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに〇印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>（参考項目：23,24,25） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>（参考項目：18,38） | 〇 | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>（参考項目：38） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>（参考項目：36,37） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>（参考項目：49） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>（参考項目：30,31） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>（参考項目：28） | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに〇印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>（参考項目：9,10,19） | 〇 | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>（参考項目：2,20） | 〇 | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>（参考項目：4） | 〇 | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>（参考項目：11,12） | 〇 | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 〇 | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 〇 | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |

## 2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホーム　笹森の屋　)「ユニット名　森の屋　」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 実践状況 | 外部評価 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念を基にグループホームでの理念を作成全員が常に共有できる所に配置している。 | ホームの理念は、法人の理念を基に皆の話し合いで創られた。「ゆっくり、一緒に、楽しく」職員は理念を行動規範として、日常のケアの実践に活かしている。尚、地域密着型事業所の位置付けについても話し合って頂きたい。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事、学校行事等に参加している。ボランティアを含め常に交流の窓口は空けている。町内会にも加入している。 | 地元との連携を大切にし、地域の行事、運動会や夏祭り等にも、入居者と職員が一緒に参加したり、小学校の学芸会に招待されて交流をしたり、ホームのクリスマス会等には、地域の子供達も参加し楽しく過ごしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域と入居者との交流の場を地域行事・施設行事等を通じて理解・支援を頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事業計画、ユニット目標、サービス内容等取り組みを報告の上、意見要望を施設全体、ユニット内で話し合いを行いケアプラン等に取り入れ改善に取り組んでいる。 | 運営推進会議は、ホームと地域を結ぶ重要な掛け橋である。会議ではの日常の生活の様子や行事等を説明し、メンバーの理解と協力を得られるよう話し合いをしているが、活発な双方向性の会議と迄は至っていない。 | 利用者や知見を有する人も委員にお願いし、地域との連携強化に対しての知恵や工夫等、活発な会議にして頂きたい。会議は県の指導で年6回開催してほしい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 情報の交換、報告、連絡、相談を行ない協力体制に取り組んでいる。 | 市の担当者との連携はよく、今回の外部評価にも同行して調査の内容を熱心に見守ってくれた。省令改正や加算手当て、介護職員の処遇改善交付金等、助言や指導もなされており、日常的にも情報交換がされている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的には身体拘束を行なわないケアを実施している。必要性がある場合は家族と相談にて検討している。 | 日中玄関に鍵を掛けていない。補助的なチャイムは来客用である。徘徊気味の人には、職員は見守り声掛け等で対応している。職員は身体拘束は高齢者虐待であることを理解し、基本的には自由な生活を目指している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 管理者、計画作成者にて防止に向けて職員に徹底指導を行なっている。又、職員を外部研修に参加させている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 施設全体研修、介護支援専門員を中心に個々にあわせて支援体制を行なっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、解約時に家族との面談を実施し充分な話し合いを行い、契約書・重要事項説明書を用い説明をしている。改定の際は説明のうえ同意書を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者の日々の中でのコミュニケーションでの意見・要望。家族連絡、面会時、運営推進会議など家族等より意見を頂いてユニット内　グループホーム全体としての意見として反映している。また、御意見箱を設けている。 | 相談苦情は、サービスの向上に貴重な情報源である事を職員は理解している。意見箱を設けたり家族の来訪時には職員から声をかけ話し易い雰囲気を作り、ホームのイベントに家族が参加した時は懇談会を持っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々、職員とのコミュニケーションを図り意見、提案等聞き出し施設長、事務長、管理者、計画作成者にて話し合い反映に努めている。 | 施設長、事務長、管理者、職員は理念を共有し、チームケアを進める為、日常的に情報交換をしており、意思の疎通を良くしている。上司は、職員の夜勤の精神的負担の大変さを理解しており、夜勤者の手厚い配置を検討している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 一方的な指示ではなく、法人及び事業所内での指示命令の統一をし、業務のストレスを感じさせない取り組みをしている。職場環境面では食事・睡眠時の別室など課題はあるが、随時検討し、次年度は努力したい。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 3年前に給与規程を抜本的に見直しをかけ、資格手当の新設や給与体系も職種別に改善しているため、資格取得に対するモチベーションがあがり受講意欲も向上している。また育成計画については年度研修計画を策定し、各職員の能力等に応じて社内外の研修に計画的に受講させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者交流については役職者等の視察見学程度であり、実質的にケアの向上には結びついていない。実際は内部における自己実現のための研修が主であるため、煩雑なGH単位での交流は難しいのが現実である。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居後出来るだけ多くコミュニケーションを図りながら一日も早く信頼関係が気づける様に心掛けている。また、本人が困っていることや不安などあれば解消できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 常に相談を心掛けて実施するようにしている。ご家族の不安や要望を伺いながらアドバイスや説明を丁寧に行い誤解を招かないように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居希望等の連絡があった際、状況を確認後詳しく事前調査を行なう。調査段階で入居困難な場合、他への情報案内など行なっている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 敬意をはらった接遇で良いコミュニケーションを図り家族のように気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との会話を入居者の報告・相談のみならず家族への配慮も心掛け、本人を共に支えていく関係を築けるように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族に本人の情報を確認し、本人の希望に添えるように手紙や電話などで連絡がとれる様にしている。また、面会・外出等の協力をお願いしている。 | 入居者の心の支えである家族、親戚、友人との関係を大切にし、また、ホームに入居してからの新しい関係つくりにも気を配り、安心して生活できる場である事が実感できる様支援している。外出等も馴染みの店に通っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 趣味や一人一人の性格などを把握して食卓のテーブル配置や座席の場所などに配慮しお互いに支えあえる支援を行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じて家族からの相談には出来る限り対応している。（各機関への紹介や情報の提供等。） | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の声に耳を傾け、できるだけ本人の意向に添えるように家族からの情報、スタッフの気づきなどを基に検討・実施している。 | 入居者と話し合ったり、家族からお話を聞いたり、入居者の思いや意向を把握している。「個別ケア」として一人ひとりの思いを大切にし、幼い時の思い出に一緒に浸ったり、回想法にもつながるような支援をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人やご家族、親戚の方などから情報を伺い以前の状況把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 見守り、観察、検温等常に職員が状態を把握し、又全職員が周知できる様、健康表及び連絡ノート等活用し状態把握に努めている。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメント、モニタリングを行い本人にとっての課題をそれぞれの関係者（家族・職員・医師等）と相談品しながらより良い介護計画内容作成に努めている。 | 介護計画は、関係者によるカンファレンスをし、利用者や家族の意向を尊重し個別具体的な目標（短期、長期）で家族の同意を得ている。計画がどう実施されているかモニタリングをして3ヶ月毎に計画を見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 以前と異なった状態（身体的・精神的）見られた際、一定期間データを取り職員間でそれぞれ話し合いを行い記録を分析し対応策を考え実施するようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 事業所だけで対応するのではなく場合によっては他事業所のスペースを利用したり協力を頂いたりして一人一人のニーズに対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域交流として地域主催の催し物に参加したり地元の小学生が慰問に来たり小学校行事に積極的に参加させていただいたりしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人の要望がある場合はご家族に受診の相談を行なうようにしている。受診時は施設内での状況（健康面・精神面）等の情報を記入作成し受診時持参していただく様にしている。主治医からの所見・指導・助言を頂き、情報を共有できるようにしている。 | かかりつけ医でも、家族が付き添って受診できる様「受診記録表」を作成している。ホームの生活や病状を記入し、受診した結果や所見等も記入して病歴の資料としている。尚、協力医による定期検診も行なわれている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 本人の異変に気がついた際は、迅速に法人看護師や協力医院に相談し適格な対応を行なうようにしています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 本人の状態を病院関係者に確認して本人の状態に合わせた対応が図れるように情報交換や相談を行ない、今後の方向性、退院に向けての支援を行なっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居後、今後の方向性など家族の意向を伺い、確認をしている。重度化に伴ないやもうえなく退居の場合は家族、医師、本人と話し合い、方向性を再度確認している。 | 重度や終末期になってもできるだけ本人の希望を尊重し、入居者が安心して生活ができる様、入居時説明して同意を得ているが同意書は作成していない。できる事、できない事を含めて十分説明し納得して頂いている。 | 看取りはホームだけでは解決しないが、信頼している入居者に対しできるだけ心地よい環境を維持できる様ケアの専門家としての関わってほしい。尚、看取りの方針を成文化し同意書による意思確認もして頂きたい。。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救命救急の受講の斡施及び内部研修実施。緊急の際は対応マニュアルや連絡網など掲示。救急の際はかかりつけの医師へ連絡、対応となっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練実施をしている。又非難路及び防災マニュアルの整備を行い周知徹底している又、非常用食材は一括して本部にて保管している。又消防署と直結の非常用通報装置を整備している。 | 消防署立会いの訓練を含め年2回の災害訓練のうち1回は夜間想定の訓練である。夜勤時に災害があった時を考え、具体的に何が課題か皆で話し合って頂きたい。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人の言動に対して否定をせず本人に敬意を持ちながら会話するようにしている。個人の者に対しての配慮。居室に入る際への声掛けなど必ず行うようにしている | 入居者の呼び名は名前に「さん」をつけて呼んでいるが、馴れ合いは戒めている。粗相をした時は、他人に気付かれない様にそっと声をかけトイレや居室で対応している。言葉使いや職員の態度から人権を尊重している事がわかった。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人に選択権を与える様にしている。（嗜好・活動等）会話の中でも常に本人に伺う様な会話をし自己決定ができやすいように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご家族情報や事前調査による情報からその人らしい生活が送れるように提供する。自分で動いて活動できる方には極力自分らしい生活スタイルで生活出来るように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着る服は主に自分で選んで着ていただいている。理容など希望の方はご家族に連絡または訪問理容を利用。時には買い物で衣類を購入する機会を作って対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 給食会社と毎月給食委員会を開き情報の交換を行っている。それぞれの嗜好を調査したりして一部嗜好内容の物を皆で作って食べたりしている。職員も一緒に食べる事により食事の楽しみがあじわえるように対応している。 | 給食委員会で献立や調理など委託業者（朝、昼、晩、の副食）と相談し、栄養のバランスについても法人と委託業者の栄養士で話しあっている。ご飯や汁物は入居者と職員が一緒に準備し、食事をした後は片付けもしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の食事は栄養士が考え提供している。全体的に食事の摂取量が少ない人、嚥下に問題がある人にはトロミをつけたり味つけを工夫したりしている。水分量も一日の目標をそれぞれ記入し不足しないようにチェックしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 本人の能力に応じて口腔ケアを行なっている。朝・夕は生活習慣となっている様子で確実に個人個人実施。口腔内の状態が悪い方は毎食後清潔を保てるように支援を実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご本人の排泄パターン、能力を調べできるだけ失敗しないようにトイレへ誘導しパットの使用を減らすように心掛けて支援している。 | 自立排泄は尊厳と生きる気力に関係する。排泄パターンやサインを見逃さず、できるだけ失敗しない様前誘導している。また、その人にあったパットやリハビリパンツも使用している。人によっては夜間のトイレ誘導をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便のパターンを確認し、主治医と相談し整腸剤や便秘薬での調整を図っている、他、水分量・運動量・食べ物等にも配慮して便秘改善に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 身体状態・精神状態に合わせて個人の希望に添えるように。また、個人の能力に応じた残存能力を活用した支援を行なっている。 | 入居者の生活習慣や希望を聞き、毎日でも入浴できる様努力している。その人にあった湯温で気持ちよく入って頂いている。入浴は、癒しの効果もあり安眠にも繋がる。夜間入浴の希望があれば検討をして頂きたい。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個人の空間（居室）内での過ごし方を大切にし、本人が不安と思われていることなど傾聴し安眠へ繋がるような対応・工夫などに努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬表を作成し個人の服用している内容サンプル・服薬マニュアルを作成し職員一人一人が把握し誤服薬がないように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人の好きな事や楽しみを本人や家族の方に伺って余暇時間には楽しめる環境を整えたりしている。役割はあえて作らず共同生活する仲間にそれぞれ思いやりをもって自主的に活動していただけるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物や外食、風物、など入居者の希望に添いながら計画をたてて外出を行なっている。またご家族の協力を得られる場合は外泊も行なっている。 | 外出は、サービスのバロメーターとも言われる。地域交流外出として地域のイベントに出掛けたり、観光として桜や紅葉など四季の変化に接し喜ばれている。今はインフルエンザで少し外出を控えている。ホーム専用の車がなく法人の車を時間調整して使用している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭的な理解ができ本人がお金の所持を希望している方にはお金を一部自己管理していただいてる。管理が難しい方でも買い物時にお金を渡し買い物ができるように支援を行なっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙を希望される場合はご家族に確認をし、了解を得られた場合希望の方に電話を掛けれるように繋いだりして対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 寛ぎの空間を何ヶ所か設けそれぞれ好きな場所で寛いでいただく様に配慮している。寛ぎの場にはそれぞれ季節感を感じられる装飾を施し家庭的な環境を作れるように工夫している。不快音、光、温度、湿度等には注意し、温度、湿度計にて都度確認し換気等実施。 | 廊下も広く居間兼食堂は明るく清潔である。温度や湿度の管理もよく、臭気のようなものは感じられなかった。居間には新聞や雑誌もありテレビの音量も適正であった。和室には昔風の茶箪笥もあり、季節の花が添えられて落ち着いた雰囲気があった。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングのほかに和室やテレビの前にソファーを置くなどして環境を整えている。また、仲の良いに入居者同士では居室内を行き来されている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族協力にて馴染みのものがあれば居室に持ってきていただく様にしている。居室内は本人の好みに整理・整頓している。困難な方は職員が手伝うようにしている。 | 入居者が居心地よく過ごせるよう、家族に使っている馴染みの物を持って来て頂くように話している。衣類、整理タンス、椅子、仏壇、テレビや裁縫箱も見られた。壁には家族の写真等も張られていた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | それぞれのレベルに応じて自立できる様な工夫を行っている。（座りながら作業しやすいような工夫や文字の理解ができる方には掲示物でのお知らせ等・・・） | | |